

地下鉄

■ 現状・課題

- 乗車人員は、南北線の一部の駅を除き、近年増加傾向
- 収支構造は改善の傾向だが、老朽化施設の更新等に多額の費用が見込まれる中でも、財務面の健全性を保っていく必要がある



案内表示の多言語化

■ 今後の方向性

- 既存施設の老朽化対策や案内表示の多言語化、民間開発と連携したエレベーターの増設など、誰もが安心して利用できる環境を整備



エレベーターの増設

鉄道（JR）

■ 現状・課題

- 市内各駅の乗車人員は、郊外部の一部の駅を除き、近年増加傾向
- 利用者の多い札幌圏を含む道内全ての線区が赤字であり、運輸収入の確保に向けた取組が求められている



JR苗穂駅の移転・橋上駅舎化

■ 今後の方向性

- 札幌市内においては、駅舎のバリアフリー化、交通結節機能の強化、快速エアポートの増便など、利便性向上・利用促進の取組を推進



駅舎のバリアフリー化

路面電車

■ 現状・課題

- 沿線人口の増加もあり乗車人員は増加傾向。それに対応する施設の強化が必要
- 経営状況は経常損失（赤字）が継続しており、抜本的な経営形態の変更など、収支採算性の確保が求められている



新型低床車両（シリウス）

■ 今後の方向性

- 輸送力の増強に対応する軌道施設の機能充実
- 各停留場のバリアフリー化や低床車両の導入など、誰もが安心して利用できる環境を整備
- 上下分離の導入
- 都心地域、創成川以東地域、桑園地域の3地域の延伸を検討



路面電車停留場

バス

■ 現状・課題

- 輸送人員は、近年ほぼ横ばい
- 市内システムの約半分は赤字であり、赤字バス路線への補助等により、路線の適切な維持を図っている
- 人口減少や乗務員不足など、路線バスを取り巻く環境の悪化が懸念



ノンステップバス

■ 今後の方向性

- 補助制度の運用による需要に合わせた適切なバス路線の維持
- ノンステップバスの導入やICTを活用した情報提供など、利便性向上を図る取組を推進



バスロケーションシステムの導入

各交通モード・施設の基本的考え方

タクシー

■ 現状・課題

- ▶ 利用者数、走行キロ数は減少傾向
- ▶ 運転手の高齢化が進行
- ▶ 2018年9月の北海道胆振東部地震の直後において、公共交通機関の中で唯一稼働



ユニバーサルデザインタクシー

■ 今後の方向性

- ▶ ユニバーサルデザインタクシー導入やドライバー研修の実施
- ▶ 急な陣痛でも優先配車される「陣痛タクシー」サービスの導入
- ▶ スマホアプリによる配車やキャッシュレス決済の拡大
- ▶ これらの各種取組により、市民の他、国内外からの観光客等、利用者の多様なニーズを捉えたサービスを提供



陣痛タクシー

交通結節点

■ 現状・課題

- ▶ 駅前広場等の施設配置はほぼ充足
- ▶ 乗換利便性の低い交通結節点が存在
- ▶ バスの運行便数が少ない、老朽化が進んだバスターミナルが存在



札幌駅バスターミナル

■ 今後の方向性

- ▶ 民間の開発やまちづくりの機会と連携し、乗継機能の向上を図る
- ▶ 交通結節機能の在り方や配置適正化について検討
- ▶ 札幌駅交流拠点においては、一大交通結節点を形成



栄町駅交通広場

北海道新幹線（札幌開業）

■ 現状・課題

- ▶ 2030年度末の札幌開業を目指し調査・設計を実施中
- ▶ 札幌駅ホーム位置について、2018年11月「東案（その2）」に認可変更
- ▶ 駅施設の利便性確保が求められている

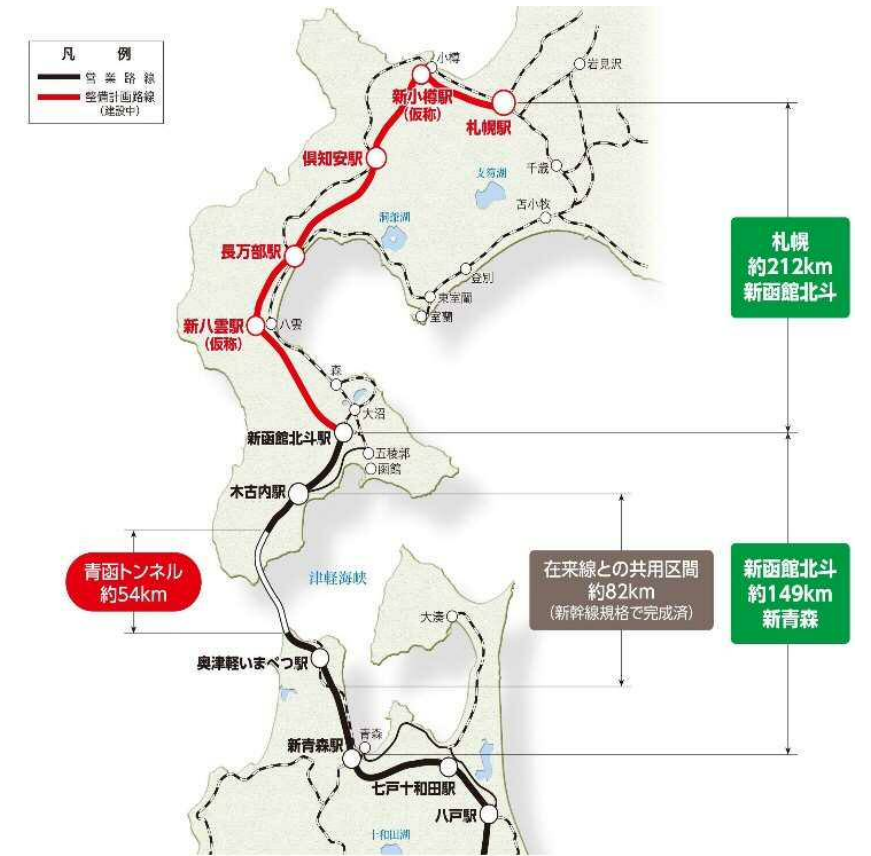


図 北海道新幹線・ルート

■ 今後の方向性

- ▶ 北海道や鉄道・運輸機構、JR北海道との連携により、建設事業を円滑に推進

丘珠空港

■ 現状・課題

- ▶ 防衛省が設置・管理し民間航空機も使用できる共用空港
- ▶ 道内航空ネットワークの拠点や、防災、医療などの役割を持つ空港
- ▶ 近年、利用者数が増加



図 丘珠空港就航路線図

■ 今後の方向性

- ▶ 「丘珠空港の利活用に関する検討会議」報告書で提示した利活用策について、市民、関係者等でさらに議論を深めつつ、丘珠空港の機能向上を促進



栄町駅交通広場の運航状況モニター

各交通モード・施設の基本的考え方

自動車（道路）：骨格道路網

■ 現状・課題

- 道央都市圏において「2高速、3連携、2環状、13放射」を骨格道路網として位置付け
- 一部の区間が未整備であるほか、骨格道路同士の交差点等において、局所的・一時的な交通渋滞が発生
- 人口100万人以上の政令市の中で、都心から高速道路までの距離が最も遠く、特に冬期は速達性・定時性が確保されていない

■ 今後の方向性

- 国や北海道等の関係機関と連携し、道内の各地域や交通拠点と都心とのアクセスを強化するなど、骨格道路網の機能を強化

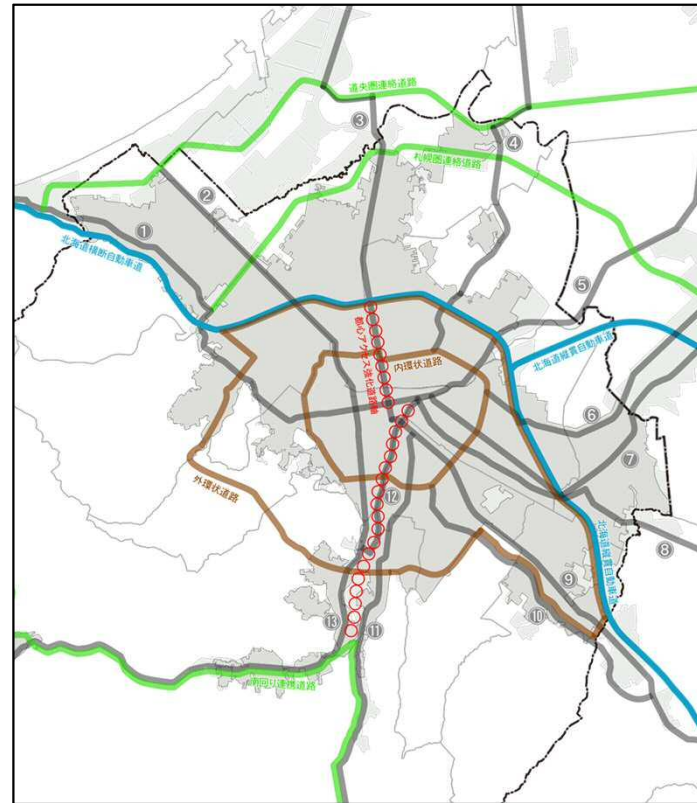


図 骨格道路網

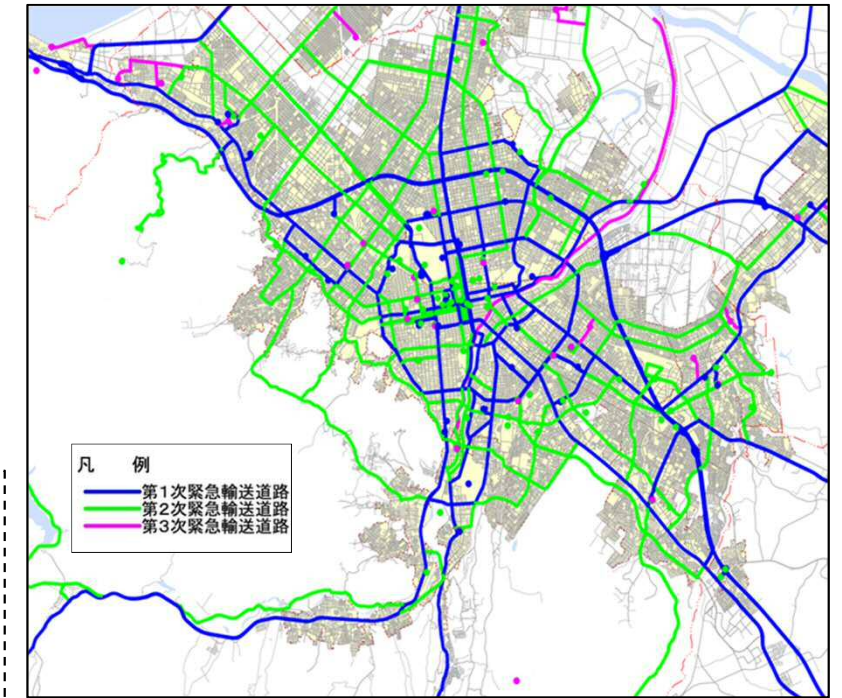
自動車（道路）：災害対策（緊急輸送道路）

■ 現状・課題

- 災害時の緊急輸送などを円滑に実施するため、防災拠点間を相互に連絡する道路として、緊急輸送道路を指定
- 防災拠点や道路の位置づけにより、第1次から第3次まで区分

■ 今後の方向性

- 未整備区間の整備、橋りょうの耐震化・長寿命化を計画的に推進
- 路面下空洞調査等による効果的な道路の維持管理・補修



自動車（道路）：幹線道路網

■ 現状・課題

- 都市計画道路の整備率は93%（2017年度末）であり、他都市と比べ高い状況
- 交通量の多い主要な交差点等において、局所的、一時的な交通渋滞発生
- 長期未着手の都市計画道路が存在

■ 今後の方向性

- 地域の交通状況・ニーズに応じて、必要な円滑化対策や道路ネットワークを維持・充実
- 道路空間の再配分など、既存道路をより有効に活用しながら取組を推進
- 長期未着手の都市計画道路の見直し、計画的・効率的な維持管理を実施

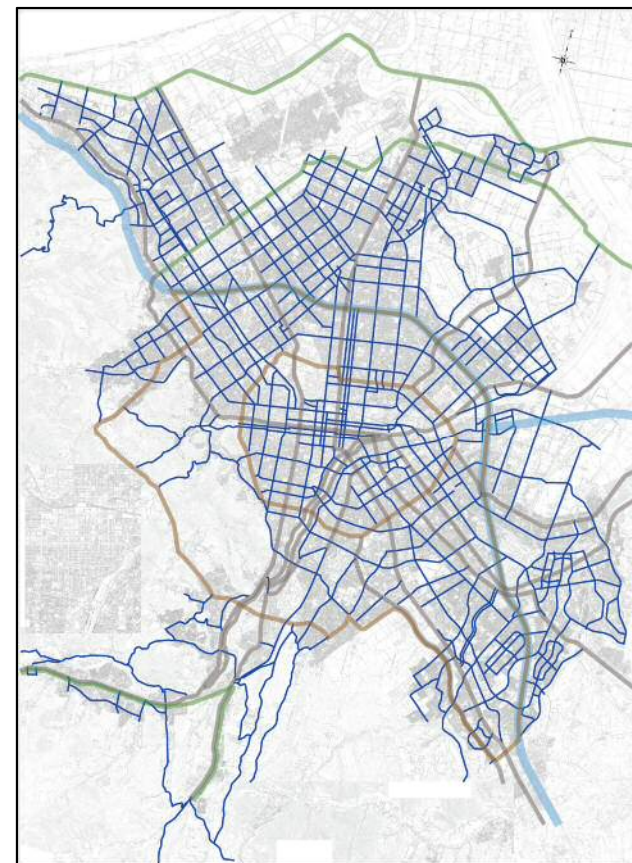


図 幹線道路網

自動車（道路）：災害対策（無電柱化）

■ 現状・課題

- 大規模地震により電柱が倒壊すると、物資の輸送や緊急車両の通行に支障
- 良好な都市景観の阻害や歩行者や車いす利用者の通行の支障となっている電柱が存在
- 昭和61年より整備対象（概ね環状通の内側や地域交流拠点周辺、商業地域）地域において無電柱化の取組を開始し、平成29年度までに93kmを整備済



無電柱化前

■ 今後の方向性

- 引き続き整備対象地域において、緊急輸送道路の必要性の高い区間等の無電柱化を推進
- 実施に当たっては、低コスト化手法や、多様な整備手法を活用



無電柱化後

各交通モード・施設の基本的考え方

自動車（道路）：雪対策

■ 現状・課題

- 除雪従事者の人員の確保が難しくなり、今後、除排雪体制が維持できなくなる懸念
- 大雪などの気象状況によっては、道路状況が悪化し、一部のバス路線では渋滞が発生



幹線道路の排雪の様子

■ 今後の方向性

- 限られた人員・体制を確保し、効果的・効率的な除排雪を行い、円滑な都市交通を支える
- 大雪への対応として、市民に加え外国人を含む観光客に対し、取るべき行動などを幅広く周知



凍結防止剤の散布の様子

駐車場

■ 現状・課題

- 都心部全体の駐車場の在車率は、ピーク時においても60～70%程度であり余裕がある状況
- 荷さばき車両や観光バスの路上での駐停車により、円滑な道路交通が阻害
- 地下鉄・JR14駅周辺の26か所でパークアンドライド駐車場を運営



荷さばき車両の駐停車状況

■ 今後の方向性

- 改正駐車場附置義務条例の適正な運用による、附置義務台数の適正化や駐車場の集約化の推進
- 附置義務条例による荷さばき駐車場の整備、民間事業者による共同荷さばきの推進
- 観光バスの受入環境整備を推進



観光バスの駐停車状況

自転車

■ 現状・課題

- 都心部や一部の駅周辺で駐輪場が不足
- 自転車の通行空間が明確ではなく、日常的に歩道上を走行
- ルール順守の意識・マナーの欠如
- 都心部では、民間事業者がシェアサイクル事業を展開



南2西4五番街駐輪場

■ 今後の方向性

- 駐輪場整備に併せ、放置禁止区域を拡大
- 自転車通行空間の明確化等を推進
- ルール・マナーの効果的な周知・啓発の実施



自転車通行空間(西5丁目線)

徒歩：歩道のバリアフリー、地下歩行空間

■ 現状・課題

- 駅周辺等の市内53の重点整備地区内において、公共施設や医療施設などの不特定多数が利用する施設をつなぐ経路の歩道をバリアフリー化
- 近年、「札幌駅前通地下歩行空間」や「西2丁目地下歩道」を整備
- 都心部の歩行者交通量が増加しており、特に地下の利用者数が大幅に増加



歩道のバリアフリー

■ 今後の方向性

- 歩道バリアフリー化を継続して実施するとともに、障がい者、高齢者等の意見を踏まえ、重点整備地区拡大や経路の追加等を検討
- まちづくりや民間開発と連動し、民間建物の地下や建物同士の接続等による地下歩行ネットワークの拡充を検討



西2丁目地下歩道